

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

(令和2年度決算版)

入間市 下水道事業

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資計画

(中長期経営計画 P66「3-3-1 投資計画」※関連 P52～58「3-2-1 投資試算2」)

①改築更新事業（長寿命化対策及び不明水対策）

管路の老朽化状況を踏まえ、布設替えや更生工法による改築更新事業を実施します。なお、今後の事業費が集中することが予想されるため毎年度の費用は平準化し、事業を進めていきます。これに先立ち、市内の公共下水道管路施設の規模を把握し、効率よく維持管理するための管路施設ストックマネジメント基本計画を策定します。

■汚水管の改築更新事業費（更生、布設替え等）（工事費のみ）

[担当課：上下水道整備課・上下水道管理課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	92	169	167	327	327	150	116	122	147	106	1,723
実績値	70	108	85	121	-	-	-	-	-	-	-
差異	△22	△61	△82	△206	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

旧防衛庁共済団地内汚水取付管布設替工事(77箇所)、令和元年度からの繰越工事である入間ヶ丘団地内取付管布設替工事【第二工区】(汚水取付管110箇所)等を実施しました。

令和2年度に完了を予定していた、市道B160号線外1路線汚水管渠布設替工事(延長77.30m)は令和3年度へ繰り越しました。

「入間市下水道ストックマネジメント計画」に基づいて発生すると見込んだ幹線管路の改築工事が調査の結果、生じなかったことにより計画していた事業費を下回りました。

■雨水管の改築更新事業費（更生、布設替え等）（工事費のみ）

[担当課：上下水道整備課・上下水道管理課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	154	154	0	0	0	0	0	308
実績値	5	0	0	6	-	-	-	-	-	-	-
差異	+5	±0	±0	△148	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

令和元年度からの繰越工事である入間ヶ丘団地内取付管布設替工事【第二工区】(雨水取付管56箇所)を実施しました。

「入間市下水道ストックマネジメント計画」に基づいて発生すると見込んだ幹線管路の改築工事が調査の結果、生じなかったことにより計画していた事業費を下回りました。

■有収率【目標値設定あり】

[担当課：上下水道管理課]

長寿命化対策と合わせ、管更生などを行うことで管きよに流入する不明水の量を削減し、有収率の向上を図ります。

(単位：%)

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値				R03年度(前期計画最終年度)⇒			92.0	R08年度(後期計画最終年度)⇒			92.0
実績値	88.4	88.6	90.2	80.0	86.0	-	-	-	-	-	-
差異	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

入間台団地内汚水管渠更生工事(延長808.53m)、入間ヶ丘団地内汚水管渠更生工事【第二工区】(延長871.43m)等を実施しました。今後も管渠更生工事や管の補修等を実施することで、管渠内への浸入水の量を削減し、有収率の向上を図ります。

なお、令和2年度の有収率は、前年度に比べ6.0ポイント回復しましたが、平成30年度以前の数値まで回復していないのは、4月から7月の長雨の影響や梅雨時期のゲリラ豪雨など、局所的に短時間で降った雨が管渠内に多く浸入したことが影響しているものと推察されます。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資計画

(中長期経営計画 P66「3-3-1 投資計画」※関連 P52～58「3-2-1 投資試算2」)

②耐震対策事業

平成29年度に下水道管路施設総合地震対策計画を策定し、重要な幹線等として位置付けた管きよの内、重要度の高い箇所から順次耐震化を図ります。

■汚水管の耐震対策事業費（工事費のみ）

[担当課：上下水道整備課・上下水道管理課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	21	21	117	98	146	150	136	689
実績値	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	△ 21	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

令和2年度に完了を予定していた公共下水道管路施設耐震化工事【20-1】（マンホール耐震化1箇所）は令和3年度へ繰越しました。工事を繰越したことにより計画していた事業費を下回りました。
令和2年度は「入間市下水道総合地震対策計画」に基づき管路2,522.40m、マンホール51箇所の耐震診断（詳細診断）を実施しました。その結果、管路707.56m、マンホール26箇所において耐震性能を有していないと判定されました。

■雨水管の耐震対策事業費（工事費のみ）

[担当課：上下水道整備課・上下水道管理課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	6
実績値	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	△ 3	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

雨水管路施設の耐震診断（詳細診断）は令和3年度から始まりますので、雨水管路施設の耐震対策工事は実施していません。

■耐震化延長【目標値設定あり】

[担当課：上下水道整備課・上下水道管理課]

(単位：Km)

	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08		
計画値		R03年度（前期計画最終年度）⇒					17.0	R08年度（後期計画最終年度）⇒					20.0
実績値	0.0	10.2	10.2	12.3	16.7	-	-	-	-	-	-		
差異	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

令和2年度決算における進捗及び評価

耐震化延長は、耐震性能を有している管路の延長となり、中長期経営計画で示されている目標値は「重要な幹線等」の耐震化延長となります。平成29年度に「入間市下水道総合地震対策計画」を策定し、幹線管路や緊急輸送路及び河川・軌道横断部等に埋設されている管路施設を「重要な幹線等」に位置付けました。また、「入間市下水道総合地震対策計画」の中で、平成15年以降に布設された、陶管を除く管路施設については、地震による被害は少ないと想定できることから、耐震性能を有している管路施設としました。その結果、平成29年度末の「重要な幹線等」の耐震化延長は10.18kmとなりました。

令和2年度に耐震診断を行なった結果、管路とマンホールの両方に耐震性能を有していると判定された延長は591.38mとなりました。また、施工年度の見直し等により3,922.52mが耐震性能を有していると確認できました。その結果、令和2年度末における「重要な幹線等」の耐震化延長は16.77kmとなりました。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資計画

(中長期経営計画 P66「3-3-1 投資計画」※関連 P52～58「3-2-1 投資試算2」)

③新規整備事業

「汚水整備」

事業計画区域内の残整備は、令和4年度までに土地利用状況に合わせて概ね5年間で実施する予定です。事業計画区域外の整備は、事業計画区域内の整備完了後に、財源を含めて再度検討します。

「雨水整備」

事業計画区域内については、最近多発する異常豪雨等の観点から、整備を令和4年度から進めていきますが、現在の河川改修の状況を考慮し一部先送りを行います。事業計画区域外については、事業計画区域内の整備が終了後に着手します。

■汚水管の新規整備事業費（工事費のみ）

[担当課：上下水道整備課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	31	24	20	40	40	67	33	33	33	33	354
実績値	19	21	16	7	-	-	-	-	-	-	-
差異	△12	△3	△4	△33	-	-	-	-	-	-	-

■汚水管の新規整備延長

[担当課：上下水道整備課]

(単位：m)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	480	360	310	620	620	700	300	300	300	300	4,290
実績値	130	193	138	26	-	-	-	-	-	-	-
差異	△350	△167	△172	△594	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

土地の利用状況に応じて約26mの汚水管渠整備を実施しました。令和2年度に完了を予定していた、2件の工事分約32mは令和3年度へ繰越しました。
汚水管渠未整備路線に接している土地の利用が少なかったため、計画していた事業費及び延長を下回りました。

■雨水管の新規整備事業費（工事費のみ）

[担当課：上下水道整備課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実績値	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-
差異	±0	±0	±0	±0	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

令和2年度は実施していません。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

財政計画

(中長期経営計画 P68～69「3-3-2 財政計画」)

①下水道使用料

下水道使用料の計画値は、現状を踏まえ、人口動向に基づき積算した額となっています。事業の先送り、企業債の発行、市からの繰入金によっても、なお収支ギャップが生じたことから、その解消を図るため下水道使用料の値上げを、令和5年度に改定率10%程度で試算しています。ただし、計画の中では金額のみを反映し、具体的な料金体系は、改定時に検討します。

■使用料収入

[担当課：上下水道経営課]

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	1,345	1,344	1,344	1,341	1,339	1,345	1,338	1,328	1,319	1,309	13,352
実績値	1,358	1,361	1,351	1,358	-	-	-	-	-	-	-
差異	+13	+17	+7	+17	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

令和2年度の下水道使用料収入(税抜き)は13億5,800万円となり、前年度決算額と比較すると、額で約700万円、率で0.52%上回り、ほぼ前年度並みの収入が確保できました。
また、計画値と比較すると、額で約1,700万円、率にすると1.27%の微増となり、概ね計画通りとなっています。
下水道使用料の傾向としては、令和元年度において5年ぶりに前年度決算額を下回り減少へと転じましたが、令和2年度は上昇しました。今後においては下水道使用料の減少が想定されるため、使用料収入に大きく影響する大口使用者の動向、使用者の節水努力や節水器具の普及などによる水需要の変化に引き続き注視する必要があります。

②一般会計補助金(一般会計繰入金)

下水道事業は、一般会計に頼らざるを得ない経営が続いているものの、今後、繰入金の抑制を図る必要があります。公営企業の経営は独立採算が原則であること、また、市の財政状況も厳しい状態にあることを踏まえ、市長部局と調整の上、負担割合を定め、補助金の抑制を図ります。

■一般会計補助金

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	303	284	293	266	248	228	218	209	198	188	2,435
実績値	288	267	231	268	-	-	-	-	-	-	-
差異	△15	△17	△62	+2	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

令和2年度の一般会計補助金は、前年度決算額と比較すると約3,700万円増額の約2億6,800万円となっており、補助金の抑制が図ることができませんでした。また、計画の中で見込んだ額を200万円上回る補助額となりました。
下水道事業に対する補助金の額については一般会計との調整の上で予算に計上していますが、市全体の財政状況が非常に厳しい状況にあることから、一般会計との調整の上、補助金の繰り入れ額の確保に努めていきます。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

財政計画

(中長期経営計画 P68～69「3-3-2 財政計画」)

③企業債

今後は、施設老朽化等による改築更新事業の増加から、新たな起債により残高の増加が見込まれます。過度な借入にならないよう、世代間負担の公平性を意識し借入額を決定します。

企業債残高を減少させ、また、事業費の財源として有効に活用するため、発行限度額を4億円とします。また、各年度の借入額は当該年度の償還元金以内とします。

■企業債発行額

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	163	213	362	390	400	400	218	147	195	114	55	2,657
実績値	132	124	170	177	315	-	-	-	-	-	-	-
差異	△31	△89	△192	△213	△85	-	-	-	-	-	-	-

■企業債償還金

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	-	797	778	757	736	690	659	606	560	514	464	6,561
実績値	811	797	778	754	732	-	-	-	-	-	-	-
差異	-	±0	±0	△3	△4	-	-	-	-	-	-	-

■企業債残高

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	-
計画値	8,302	7,718	7,301	6,935	6,598	6,308	5,219	4,760	4,395	3,996	3,587	-
実績値	8,271	7,597	6,989	6,412	5,995	-	-	-	-	-	-	-
差異	△31	△121	△312	△523	△603	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

令和2年度の借入額は3億1,500万円となり、計画上の発行限度額である4億円以内に抑えることができました。また、当該年度の償還元金7億3,200万円を下回っています。なお、「公共下水道管路施設耐震化工事(20-1)」が令和2年度から3年度へ繰り越しとなったため、その財源である企業債1,500万円は3年度に借り入れる予定です。

企業債残高は、令和2年度末で約59億9,500万円となり、令和元年度末の64億1,200万円と比べ、4億1,700万円の減少となります。なお、令和2年度末の企業債残高が計画値に比べ6億300万円少ない要因としては、平成28年度～令和2年度の企業債発行額が計画値より少なかったことが影響しています。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

財政計画

(中長期経営計画 P68～69「3-3-2 財政計画」)

④自己資金（内部留保資金）

自己資金は、財政基盤を強化し健全な経営を維持するため、令和8年度末残高7億円を確保します。
目標額は、安定した支払準備金を持つこと、短期的な支払能力を高めること、継続する更新事業に備えること等により、設定したものです。
また、資金の短期の支払能力を高めるため、流動比率を100%以上にします。

■現金預金（年度末残高）

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	300	356	469	649	513	421	1,260	1,252	1,273	1,286	1,379
実績値	404	768	750	896	1,209	-	-	-	-	-	-
差異	+104	+412	+281	+247	+696	-	-	-	-	-	-

■流動比率

[担当課：上下水道経営課]

(単位：%)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	-	45.8	62.1	88.2	74.4	63.6	191.4	206.5	227.4	250.5	297.4
実績値	56.9	80.7	93.6	118.8	163.1	-	-	-	-	-	-
差異	-	+34.9	+31.5	+30.6	+88.7	-	-	-	-	-	-

□参考 損益勘定留保資金（年度末残高）

[担当課：上下水道経営課]

(単位：百万円)

項目	H28参考	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08
計画値	172	210	289	454	396	323	1,169	1,190	1,222	1,225	1,339
実績値	183	365	444	674	954	-	-	-	-	-	-
差異	+11	+155	+155	+220	+558	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

令和2年度決算時点の貸借対照表における現金預金残高は約12億900万円であり、計画値を約7億円上回っています。これは収益的収支において平成29年度から計画を超える利益が生じていること、また資本的収支において僅かではありますが収支不足額が少なく済んでいることによるものです。
短期的な支払能力を示す流動比率は、令和2年度決算では163.1%となり、計画値に比べ88.7ポイント上回っています。令和2年度決算時点の現金預金残高が増加したことに加え、流動負債である未払金が減少したことが比率を上昇させた要因となります。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

投資・財政計画

(中長期経営計画 P70～73「3-3-3 投資・財政計画」)

①収支計画

[担当課：上下水道経営課]

■収益的收入

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	2,310	2,319	2,315	2,283	2,260	2,317	2,286	2,262	2,224	2,202	22,778
実績値	2,318	2,335	2,338	2,346	-	-	-	-	-	-	-
差異	+8	+16	+23	+63	-	-	-	-	-	-	-

■収益的支出

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	2,238	2,212	2,194	2,239	2,235	2,252	2,250	2,239	2,191	2,191	22,241
実績値	2,168	2,130	2,158	2,130	-	-	-	-	-	-	-
差異	△70	△82	△36	△109	-	-	-	-	-	-	-

■当期純利益

(税抜き表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	71	106	120	43	24	64	35	22	32	10	527
実績値	149	205	180	217	-	-	-	-	-	-	-
差異	+78	+99	+60	+174	-	-	-	-	-	-	-

■資本的收入

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	255	372	402	449	453	306	238	300	194	136	3,105
実績値	166	177	197	354	-	-	-	-	-	-	-
差異	△89	△195	△205	△95	-	-	-	-	-	-	-

■資本的支出

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	1,150	1,255	1,235	1,559	1,513	1,375	1,192	1,220	1,127	956	12,582
実績値	986	1,105	1,028	1,125	-	-	-	-	-	-	-
差異	△164	△150	△207	△434	-	-	-	-	-	-	-

■資本的収支不足額（補填額）

(税込み表示)

(単位：百万円)

項目	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	計
計画値	895	883	833	1,110	1,060	1,069	954	920	933	820	9,477
実績値	819	928	831	771	-	-	-	-	-	-	-
差異	△76	+45	△2	△339	-	-	-	-	-	-	-

令和2年度決算における進捗及び評価

収益的収支では、収益的收入が23億4,600万円、収益的支出が21億3,000万円となり、その結果、当期純利益約2億1,700万円を計上することができました（金額は税抜き）。収益的收入は、計画値に比べ下水道使用料や長期前受金戻入が上回った影響等により、全体で約6,300万円上回りました。一方、収益的支出では汚水処理費、管渠を維持管理するための経費や減価償却費、支払利息が下回った影響等により、全体で約1億900万円下回りました。この結果、当期純利益は計画値に対し1億7,400万円上回ったものです。

資本的収支では、資本的收入が3億5,400万円、資本的支出が11億2,500万円となり、資本的収支不足額は約7億7,100万円となりました（金額は税込み）。計画値と比較すると、資本的收入は企業債借入額が下回った影響等により、全体で約2億500万円下回りました。一方、資本的收入は、計画値に比べ企業債借入額が下回った影響等により、全体で約9,500万円下回りました。一方、資本的支出は、計画値に比べ管渠を新設・改良するための事業費や流域下水道への負担金が増えた影響等により、全体で約4億3,400万円下回りました。この結果、資本的収支不足額は計画値に対し3億3,900万円下回ったものです。

今後の事業運営についても、引き続き中長期経営計画を基に計画的に運営していきます。

入間市下水道事業中長期経営計画 進捗管理評価シート

効率化・経営健全化の取組

(中長期経営計画 P81～82「第4章 効率化・経営健全化の取組」)

下水道事業の効率化・経営健全化の取り組みについては、目標達成のための具体的施策について、実施すべき事業内容、整備目標水準を明確にし、効率的かつ効果的に実施します。

①組織、人材、定員、給与に関する事項

計 画	令和2年度決算における進捗及び評価
事業管理に必要な補完体制の確立、技術力の維持・継承のため、上下水道部の利点を活かした具体的な補完体制や必要な執行体制を検討します。また、脆弱な管理体制を避けるため、地方公営企業として継続するための人員確保および職員の意識改革と計画的な人材育成を実施します。なお、人員構成については、今後の更新事業に対応するため、事務職員・技術職員間で減員・増員が可能か検討します。 [担当課：上下水道部全課]	日本下水道協会等が主催するに研修会や講習会に参加し、下水道に関しての知識の習得を図りました。また、OJTを実践し技術や知識の継承を図りました。さらに、担当内において定期的に打合せを行ない、業務の進捗状況を共有するとともに、現場作業は複数の職員で行い、業務経験の少ない職員のフォローアップに努めました。上下水道の両事業を両立するためには、下水道工事に特化した職員を軸に体制を整える必要があることから、定数管理を担当する部署に職員の増員を要望しました。

②広域化・民間資金、ノウハウの活用に関する事項

計 画	令和2年度決算における進捗及び評価
本格的な人口減少社会の到来が見込まれているため、効率的な施設管理として既存施設の活用、水道等他分野との連携、行政界を超えた複数の各地方公共団体間における地域的な連携による広域化・共同化を検討します。 [担当課：上下水道部全課]	埼玉県下水道推進協議会に参加し、他市との意見交換等を行い情報の共有を図っていますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催となりました。今後も県等との連携体制の構築に努めていきます。

③その他の経営基盤の強化に関する事項

計 画	令和2年度決算における進捗及び評価
将来の更新財源の確保や人口減少等による使用水量の減少の見通しを踏まえた使用料収入とします。施設の計画的な点検・調査及び改築・更新を促進するため財源の確保に努めます。平成27年度に地方公営企業会計を導入したことにより、財務諸表である損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー等を活用し、経営の見える化によるアカウンタビリティの向上を促進します。今後も汚水処理費の削減、適正な使用料収入に努め、回収率の向上を図ります。 [担当課：上下水道経営課]	令和元年度決算の「財務諸表」に加え、近隣市や類似団体と比較可能な「経営比較分析表」についても、ホームページ等を活用し市民向けに公開するなど、経営の見える化に努めています。令和2年度の決算状況についても順次公開します。また、上下水道の組織を統合した利点を活かした事務の効率化等を推進し、経費の削減に向けた取り組みを実施しました。

④資金に関する事項

計 画	令和2年度決算における進捗及び評価
安定した財政運営を行うため、総合資金収支に不足が生じないよう資金管理をします。 [担当課：上下水道経営課]	今後、本格化する更新事業に備えて、令和2年度も内部留保資金の醸成に努めました。引き続き、短期的な支払能力を示す流動比率の向上に努めます。

⑤情報公開に関する事項

計 画	令和2年度決算における進捗及び評価
<p>下水道事業の経営状況については、使用料及び税金等の形態で経営を支え、そのサービスの受益者である市民への公表が求められます。よって、下水道の役割に加え、経営状況など下水道の実態についても、市ホームページ、広報などで正しくわかりやすく伝えます。</p> <p>[担当課：上下水道部全課]</p>	<p>令和元年度決算に関する記事を掲載した「上下水道トピックス」を令和2年12月に発行し、広報するま12月1日号と共に各戸に配布しました。</p> <p>また、「財務諸表」や「経営比較分析表」を市ホームページに公開しました。</p>

⑥その他の重点事項

計 画	令和2年度決算における進捗及び評価
<p>管路施設は特に重要な幹線等を優先的に耐震化するとともに、必要な機能確保を計画的、段階的に実施します。実施に先がけ、下水道管渠施設総合地震対策計画を策定します。</p> <p>[担当課：上下水道整備課]</p>	<p>平成29年度に「入間市下水道総合地震対策計画」を策定しました。</p> <p>「重要な幹線等」に対して計画どおりに診断業務を実施できており、令和2年度から耐震化工事を実施しています。</p>
<p>管路の老朽化状況を踏まえ、布設替えや更生工法による長寿命化を実施します。</p> <p>[担当課：上下水道整備課・上下水道管理課]</p>	<p>昭和40年代の大規模団地の開発に伴い布設された管路施設の改築（布設替工事・更生工事）事業は、計画どおり実施できています。</p> <p>大口径である幹線管路は、「入間市下水道ストックマネジメント計画」に基づき管路内調査を行い、修繕改築計画を策定し、修繕・改築工事を実施します。</p>
<p>雨天時に污水管へ流入する雨水による不明水は、処理費用の増加をまねくと共に、管路の流下を阻害するので、不明水の流入を防ぐ対策を講じ、有収率の向上を図ります。実施に先がけ、管路施設管理計画を策定します。</p> <p>[担当課：上下水道管理課]</p>	<p>令和元年度に実施した「公共下水道管路施設耐震診断調査（詳細診断）業務委託（19-1）」の結果を受けて、地下水及び地下浸透水の流入を防ぐための部分補修（止水工）を実施しました。</p> <p>管路施設管理計画については、策定に向けて今後検討していきます。</p>
<p>人口減少や高齢化が進展し投資余力が減少する中で、ストックの改築・更新の増大等を踏まえると、今後未普及対策への投資拡大はますます厳しくなるため、地域の実情に応じた早期概成方策の検討を進めます。</p> <p>[担当課：上下水道整備課]</p>	<p>未普及区域（事業計画区域外）は主に市街化調整区域になります。今後は既設管路施設の改築事業及び耐震化事業を推進していくため、現時点では市街化調整区域の早期概成方策の検討は行っていません。</p>